

# 北の文化

私は北海道大学で分類学を研究し、教え、10年ほど前に定年退職しました。大学での仕事が認められ、本年度の南方熊楠賞をいただきました。感謝！ 授賞式での講演「ヒトの目にとまらない生き物たち」のエッセンスをお話します。

まず分類学とは——。自然の中から「種」と呼ばれるユニットを見つけ出す研究です。種とは簡単に言えば互いに交配して子供を作ることの出来る個体の集まりです。しかし、深く考えればそう簡単でもなく「種とは何か？」も分類学の重要な研究テーマのひとつです。一方、自然のカラクリの解明については分類学者は苦手です。

次に分類学が人間社会に役立つ例を。2008年に下村脩氏は「緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見と生命科学への貢献」でノーベル化学賞を受賞しました。緑色蛍光タンパ

## ヒトの目にとまらない生き物たち

馬渡 駿介

北海道大学  
名誉教授

ク質はオワンクラゲから下村氏が発見、分離精製しました。しかし、遡れば、光るオワンクラゲを発見したのは分類学者です。分類学者がノーベル賞のネタを提供したというわけですね。その他、人間の暮らしを良くするための多くの応用研究に分類学が役立ってきました。生物模倣工学（バイオミメティクス）のおかげでカワセミのクチバシの形をヒントに新幹線ができたという話はご存じでしょうか。カワセミを発見して名前をつけ、クチバシの形を記録したのも分類学者です。

人間は「ヒト」という和名と「Homo sapiens」という学名のついた種です。和名とは日本語名、学名とは世界で通用する種名のことです。今までに分類学者が発見し、学



第29回南方熊楠賞の授賞式で5月11日、和歌山県田辺市

## 生きている同胞として認識

名をつけて報告した種は170万種ほどと言われています。地球上に1千万とか1億の種がすんでいると推定されています。つまり我々は地球上の全生き物の2〜20%しか知らないのです。ですから第2、第3のオワンクラゲ、カワセミを発見するには分類学の振興が必要です。

でも、1千万種、1億種の生き物全部が人間社会に役立つことなど、あり得ません。そのほとんどが食料にも害にもならない、人間の暮らしと関係の無い生き物たちです。それから「ヒトの目にとまらない生き物たち」に対し、どのように接すれば良いのでしょうか？ ヒトは生物界で唯一大きな脳を持ち、ヒト以外の生き物の運命を左右できる力を備えています。食べられる生き物を食べ、害となる生き物を殺すのは仕方ないとして、人間は己の暮らしと無関係の生き物の運命を左右しないという矜持を持つべきだと、分類学を研究する中で私は常に思っていました。

人間社会に暮らしていると人間しか目に入りません。しかし、分類学を知り、様々な生き物が地球上で共存している事実を知れば、自分を抑制し、慎み、「ヒトの目にとまらない生き物たち」の命を粗末に扱わなくなる。これは結局、人間としての自信、自負、誇りがあるからこそ出来ることです。人間は人間以外の生き物を無視しがちです。けれども、無視できる立場にいるからこそ無視しない、と私は自分に言い聞かせています。分類の目を持つ、つまり、様々な生き物がこの地球上に我々の同胞として生きていることを認識する。これこそ、いまの我々にとって必要なのではないのでしょうか。

分類学の振興を目的のひとつとして国立自然史博物館に設立する活動が続いています。一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会のホームページ（<https://site.google.com/view/okinawa-natural-history-museum>）を訪れてください。沖縄に出来たら、次は北海道です。

まわり・しゅんすけ 1946年、東京生まれ。88年、北海道大学理学部教授、2007年、北大総合博物館館長に就任。10年、定年退職。19年、南方熊楠賞を受賞。

約2万2千ある同公園は3町にまたがり、3町などは1984年から国定公園化に向けて取り組んできた。

# 聞く・語る

## 道南の魅力発見 ドライブビデオ

参加したのは田中浩司・商学部教授の授業を履修して、観光素材としての「北海道・北東北の縄文遺跡群」について学んだ6人の学生で、いずれもサークル「アウトドア同好会」のメ

キャンプでの調理風景なども盛り込み、10月に実質4日間の撮影旅行へ出かけ、その後、編集作業を進めた。

映像は約4分。紹介しているのは大船遺跡、恵山、3町などで構成する、厚岸

厚岸道立自然公園 厚岸町長の若狭会長が要望書を鈴木知事に手渡した。

### 国定公園指定

### 知事に要望書

### 厚岸道立自然公園